

## 新任教授紹介

## 患者さんそれぞれの生き方に寄り添う医療体制の提供

医療情報学講座 教授 木村映善

医療情報学は非常に新しく、もとは医療工学の分野で医療機器の研究をしていた先生方が兼任で研究していました。わたしたち世代から専任で行い、人とモノと情報をいかに動かし活用するかを研究しています。現在の医療情報学の三本柱は、病気の情報・医薬品の処方・ゲノム情報です。これからの時代は医療機器や医薬品に並んで「医療情報」も医療に大きく関わります。情報があることで、医療安全、院内連携、地域連携、最適な医療とのマッチングなど医療全体の質が向上します。しかし、日本では個人情報を含む情報提供に萎縮する傾向があり、データを十分に活用できる環境ではありません。また医療情報を扱うのに慣れていません。ですから学問として研究・啓発を率先して行うだけでなく、患者さんには情報に係るリスクを正しく理解してもらうことも必要です。また、医療へのAIの導入（臨床判断の支援）、医療政策や臨床研究に貢献するリアルワールドデータの分析、データサイエンスに関する人材育成等も進めます。疾患に合わせた分析・医療から、患者さんの個々の臨床に合わせた医療体制の提供を目指します。

**PROFILE**

きむらえいぜん©1999年北海道大学医学部卒業、2003年愛媛大学大学院医学系研究科修了。愛媛大学医学部医療情報部助手、保健医療科学院の統括研究官を経て、2020年5月より現職。休日は子どもと釣りに行くなどアウトドアを楽しむ。